

ますけども、やはり結婚したくてもいろんなさまざまな事情でできない方っていうのは当然おられると思いますし、そういった方々をやはり支援していくというのが大事だと思いますので、その辺はしっかりと今後とも続けてやっていただきたいと思います。

あと、最後に、5Gに関しては、やはりこれはなかなか簡単にいくものじゃないとは思ってますし、今、現状、中国、韓国がすごい進んでる事業で日本がかなりおくれてる中で進めてるわけですから、これに関しては、なかなか国のほうの情報をやっぱりしっかり確認しながら進めていかないとまずいのかなと思いますので、その辺に関しては、十分に情報をとっていただけるようにお願いします。

あと、人口減少問題という部分に関しては、やはり解決する手だてというのはなかなかないと思いますし、全国の自治体が全て行ってることで、そこで競争になってるというふうに考えております。やはりそういった中で、長井市を知っていただくという部分が一番大切なんだろうというふうに思いますけども、やはりそういった中で、SNSを通じまして、市内の行事であったり、さまざまなイベントであったり、そういったものをどんどん発信していくことが必要だと思うんですけども、そういったことを庁舎の中の職員が得意な方がいらっしゃると思うんですが、余りにも市のホームページであったり、そういったものにこだわらないで、逆にそういったことが常日ごろ発信できるような状況がつかれないのかなと思うんですが、その辺、市長はいかがでしょう。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 人口減少については、ことし国勢調査があって、ことしの国勢調査はちょっと準備が整わないなと思って、厳しい結果が出るだろうなと思って覚悟してますが、今ハードを一生懸命進めております。あと、ソフトは、例

えば教育と子育て等々について、まだまだ力を入れなきゃいけないんですが、これらについて、令和2年、3年ぐらいでやっぱり方向性が出てくるんだろうと。

そこで、やっぱり都会から、首都圏からというのも大切なんですけど、いや、本当にこういう考え方はよくないのかもしれないんですけども、東根、天童に学ぶと言うと大体わかると思うんですが、宅造も含めて、若い人たちが家を持つ、あるいは核家族になりますけれども、そういったところの、ぜひ長井に行きたいというのは、やっぱり議員おっしゃるPRの部分、告知、広報の部分でありますので、この辺などは、今後ちょっと専門家も必要なのかなと思っておりまして、これもこれから二、三年で力を入れてまいりたいと思っております。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 ぜひ、人口減少の流れを緩やかにするために頑張っていきたいというふうに考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

渡部秀樹議員の質問

○平 進介議長 次に、順位4番、議席番号9番、渡部秀樹議員。

(9番渡部秀樹議員登壇)

○9番 渡部秀樹議員 お疲れさまでございます。緑風会の渡部秀樹です。よろしく願いいたします。

非常に雪の少ない冬が終わり、美しく啓翁桜が咲く3月議会、会派緑風会を代表して質問させていただきます。

今、国内外で猛威を振るっております新型コ

ロナウイルスが一日でも早く終息に向かうこと
をお祈りいたします。また、昨年10月に起きま
した台風19号に起因する10月12、13日豪雨並び
に記憶に新しい高野町の大火で亡くなられた皆
様のご冥福をお祈りいたします。

これからも一消防団員として、市民の生活を
守る、消防、水防活動の最前線に立つ決意をさ
せていただきました。

それでは、通告に従って質問させていただきます。
質問は大きく3項目ありますので、順次
お答えいただきますようよろしくお願いいたします。

1項目めは、都市機能の充実と小さな拠点の
整備の方向性等についてお聞きいたします。

本市は、第5次総合計画後期基本計画の3つ
の重点戦略に、その1、長井の子育て魅力UP
戦略、長井のまちなか魅力UP戦略、長井で働
く魅力UP戦略を核として、「健やかにいきい
きと暮らせるまちづくり」から「市民と共に未
来を創る体制づくり」までの基本目標24の個別
施策により掲げられた未来像である、「みんな
で創る しあわせに暮らせるまち 長井」の実
現のため事業を推進しておりますが、都市機能
の集積や西置賜地域の中心としての都市機能の
充実、将来にわたって地域住民が暮らし続ける
ことができるようにと推進している小さな拠点
整備は重要なポイントと考えるため、本市の方
向性についてお聞きいたします。

1点目は、都市機能の充実の方向性について
お聞きいたします。

都市機能を集積しながら充実しつつある本市
において、今後どのように都市機能の集積を
図っていくのか、また、西置賜地域の中心として、
都市機能の充実の方向性についてお聞きいた
します。

現在、建設中の市庁舎や建設予定の公共複合
施設、県で進められている本町通りの街路事業、
本町の菜なポートやクロスバ、旧長井小学校第

一校舎、そして、距離的には少し離れますが、
十分にまちなかに位置する新長井病院の建設、
平成29年にオープンした、道の駅川のみなと長
井、県に要望している駅前通りの街路事業など、
本市の都市機能を駅周辺や本町を中心としたエ
リアに集積しながら、充実しつつあると感じて
います。

そこで、本市と同様に、駅周辺を中心とした
魅力ある拠点づくりを推進している京都市の魅
力づくり拠点例を見ますと、魅力づくり拠点の
5大要素として、1つに、ものづくり都市、2
つに、文化芸術都市、3つに、にぎわい、4つ
に、観光都市、5つに、大学のまちとあります。
これを本市と比べてみますと、本市は地方都市
として、間違いなくすぐれたものづくりのまち
であり、芸術に秀でた方々を生み出している地
方の文化芸術都市であり、現在、観光やまちな
かのにぎわい創出のため、官民一体となって取
り組んでおります。しかし、まちなかに大学や
短期大学、専門学校等はなく、対する京都市は、
学生のまちとして大変にぎわっております。

このように、駅周辺を中心とした魅力ある拠
点づくりを考えた場合、駅周辺を中心としたま
ちなかに学生や若者が集うことができれば、相
当魅力的な拠点になると思います。大学や専門
学校等の誘致は困難ですが、現在、伊佐沢地区
にある山形県工科短期大学校に駅周辺を中心と
したまちなかに移転をお願いすることも考えら
れると思います。これを踏まえ、今後どのよう
に都市機能の集積を図っていくのか、また、西
置賜地域のにぎわいの中心としての都市機能の
充実の方向性について、市長にお聞きいたしま
す。もちろん財政的なこともあります。魅力
的な都市機能の集約と充実は本市の未来に直結
いたしますので、よろしくお願いいたします。

次に、雪国における都市機能として、除排雪、
融雪への対策は不可欠であると考えますが、排
雪場所の少ない住宅地の対策についてお聞きい

たします。

現在、主要な市道の除排雪、融雪については、冬期の市民生活に支障はなく、とてもよい体制がとれていると感じております。しかし、住宅地では排雪場所が少ないため、自宅前の除雪をする市民ばかりではなく、住宅地の道路を除雪している事業者にも支障が出てきております。

そこで、「みんなで創るしあわせに暮らせるまち 長井」の実現のため、排雪場所の少ない住宅地の道路の消雪道路化や住宅地の雨水側溝の流雪溝化について、毎年少しずつでも取り組むことを検討できないか、市長にお聞きいたします。また、住宅地の除排雪、融雪対策について、現在検討していることがあればお聞かせください。

次に、都市機能の充実には、要素の一つとして、就業先の確保が不可欠であると考えますが、企業誘致について、現在どのように進んでいるのかお聞かせください。

第5次総合計画後期基本計画の工業振興分野に企業誘致や新工業団地の整備などが上げられておりますが、人口減少を食い止めるための都市機能としても充実させねばならない要素であると考えますので、企業誘致の現状と今後の見通しについて、市長にお聞きいたします。

2点目は、小さな拠点の方向性についてお聞きいたします。

各地区のコミュニティセンターを小さな拠点として定め整備していますが、今後どのように整備を進めていくのかお聞きいたします。

小さな拠点の整備について、国は、人口減少や高齢化が著しい中山間地域等において一体的な日常生活圏を構成している集約生活圏を維持することが重要であり、将来にわたって地域住民が暮らし続けることができるようにと、1つに、地域住民が主体となった集約生活圏の将来像の合意形成、2つに、地域運営組織の形成、3つに、生活サービスの維持確保、4つに、地

域の収入の確保のためのコミュニティービジネスの実施などの取り組みを進めるとともに、地域に合った生活サービス機能や交通ネットワークの確保により、小さな拠点の形成を推進しております。つまり、小さくとも拠点として整備するには、拠点としての安心感と人、物、お金の動きも必要になると思います。

そこで、中央コミュニティセンターは、近隣に道の駅と本庁舎があるので別となりますが、小さな拠点たる各地のコミュニティセンターへの簡易的な行政窓口の設置や公設民営の小型の菜園ポートのような、また、コンビニエンスストアのような施設の設置は検討できないでしょうか。以上を含めまして、今後の整備について市長にお聞きしたいと思います。

次に、長井盆地西縁断層帯の影響や老朽化から廃止という方向性が出されました西根体育館は、西根地区では活動や防災の拠点となっているが、小さな拠点として適切な土地に新たに拠点の整備をするべきではないか、また、老朽化が進む平野体育館についても同様に再整備すべきではないか、お聞きしたいと思います。

市民の安全と安心の確保と地域コミュニティーの推進のため、長井盆地西縁断層帯の影響のない安全な地に、西根コミュニティセンター及び体育館は移すべきであると思います。また、平野体育館も活動の拠点として再建しなければ、小さな拠点としての機能にも支障を来すと思いますので、市長のお考えをお聞きしたいと思います。

2項目めは、重要文化的景観活用の方向性についてお聞きいたします。

本市の小出地区と宮地区の町場景観が江戸時代の最上川舟運に由来する最上川西岸の街道に沿って商家群などが点在する町場景観として、平成30年2月13日に国から重要文化的景観に選定され、さまざまな周辺整備や観光PR事業を進めておりますが、今後の重要文化的景観の活

用の方向性についてお聞きいたします。

最初に、教育行政としてどのように捉え、本市の教育にどのような活用を検討しているのかお聞きいたします。

重要文化的景観に選定された町場景観は、本市の産業や人々の生活、地域が積み上げてきた歴史を色濃く残しており、市内に点在する、国の登録有形文化財群や県指定有形文化財の建物とあわせ、地域教育に欠かすことのできない財産であると思います。

そこで、教育行政としてどのように捉え、本市の教育にどのような活用を検討しているのか、教育長にお聞きいたします。次に、本市の観光資源として、今後どのような活用を検討しているのか、また、周辺環境整備についてどのように検討しているのかお聞きしたいと思います。

さきに述べたとおり、重要文化的景観を有する町場景観は、市内の有形文化財群とあわせ、地域にとって貴重な資源であり、地方都市としては、質、数、両面ともに十分に価値のある有形文化財観光資源群であるとも言えます。この有形文化財観光資源群を生かし切るため、同じく文化的景観を有する自治体に声がけして、全国大会レベルのシンポジウムの開催や市民の方々とともに学びながらのPR活動、景観に配慮した案内板や道路標識の標柱の景観配慮配色などが考えられると思いますので、市長にお考えをお聞きします。

次に、重要文化的景観付近やそのエリアで、景観に配慮し、家屋や家屋を囲む塀等の新築、増改築などをする場合の補助金の設定について提案いたします。

これもさきに述べたとおり、重要文化的景観に選定された町場景観の文化財的価値は高く、すばらしい観光資源であると感じていますが、有形文化財観光資源群としてさらに付加価値をつけ、売り込むためには、新潟県村上市で行われている外観再生プロジェクトの一環として始

められました黒塀プロジェクトや町屋再生プロジェクトのように、地域資源である有形文化財の多いエリアを中心に景観に配慮した建物への増改築やブロック塀などの景観に配慮した配置の木を打ちつけるなど、地域が一丸となって取り組む必要があると思いますので、市長のお考えをお聞きいたします。

これは、議長に許可をいただき配付いたしました資料の1段目になります。観光カリスマ百選にも選ばれている、新潟県村上市の名産品である、サケの加工販売店「味匠喜っ川」の若主人、吉川真嗣氏が若かりしころに地元の有志で始めた取り組みの一つで、城下町の風情が残る外観再生プロジェクトの一環として始められた取り組みの一つが、黒塀プロジェクトと町屋再生プロジェクトであります。私が初めて吉川氏とお会いしたのは、ちょうど黒塀プロジェクトの次のステップとして町屋再生プロジェクトを始めたころで、これからも生業の傍ら、さまざまな企画を町屋のみならず一緒に取り組むと目を輝かせていたのを覚えております。

黒塀プロジェクトは、味気ないブロック塀や鉄柵を黒く塗った木の板で覆うもので、町屋再生プロジェクトは、近代化された家屋や店舗を江戸後期から昭和初期の風情に改装するものです。ともに歴史的景観の再生をしたプロジェクトであります。

続きまして、3項目めの観光振興事業についてお聞きいたします。

第5次総合計画後期基本計画の観光振興分野で示されている目標として、交流人口を増加させ、地域経済に貢献する観光とありますが、この裾野の広い観光産業を推進するため、提案させていただきます。

初めに、ながい百秋湖の湖面活用事業について、人気アニメ「ポケットモンスター」ラプラス型足こぎボートの運航について提案いたします。

これは、議長の許可をいただきまして配付いたしました資料の2段目になります。

現在、ながい百秋湖の湖面では、屋形船による遊覧船、ゴムボートにより三淵溪谷に行くボートツーリング、水陸両用車の試験運行など、観光客の目を引くイベントが数多く実施されており、今後の観光客の伸びも期待されています。しかし、夏休みの子供たちの目を引く企画としては少しかたさが感じるため、本市にマッチし、子供たち受けをするような観光事業を探していた昨年の夏に、人気アニメ「ポケットモンスター」ラプラス型の足こぎボートを見つけましたのでご提案いたします。

これは、子供たちの目を引く人気アニメ「ポケットモンスター」のキャラクター、ラプラスの形をした足こぎボートで、本市と同じようにダム湖の湖面を利用して運航していた自治体の関係者から、ダム湖の貯水量に左右されるが、注目度はあったとお聞きいたしましたので、ながい百秋湖の湖面活用事業として、人気アニメ「ポケットモンスター」ラプラス型足こぎボートの運航について、市長のお考えをお聞きいたします。

次に、まち歩き時に観光客などが気軽に休める休憩所と気軽に前が頼める出前ポイントの設置について提案いたします。

現在、桜が咲く季節から、もみじ色づく季節まで、小さなリュックを背負い、まち歩きマップを片手にまち歩きを楽しむ観光客が目につくようになりましたが、まちなかにはまだまだベンチなどの休憩所が少ないと感じております。

そこで、まち歩き時に観光客などが気軽に休める休憩所と、その休憩所に米沢市の小野川温泉で実施しているラーメン出前ポイントのように観光客が気軽に前を頼める出前ポイントの設置についてご提案いたしますので、市長のお考えをお聞きいたします。

これは、議長に許可をいただきまして配付い

たしました資料の3段目になります。

観光カリスマ百選にも選ばれている小野川温泉、河鹿荘のご主人、佐藤雄二氏が若かりしころに温泉場の有志で始めた取り組みの一つで、積極的に観光客に温泉街を歩いてもらおうとして始めた仕組みがラーメン出前ポイントでありました。

最後になりますが、ご寄附いただきました芸術作品等を活用した文化芸術観光の推進について提案いたします。

本市は、重要文化的景観や国の登録有形文化財群、県指定の有形文化財が数多く、日本美術展覧会、日展の参与でありました彫刻家の長沼孝三氏や著明な版画家であります菊地隆知氏を生み出した、文化芸術の香りがする地方都市であります。

そこで、ご寄附いただきました芸術作品等を活用し、市内の文化施設や公共施設、タスパークホテルや新市庁舎、新長井駅、あやめ公園開園時期のあやめ会館など、市内随所で見られるような文化芸術観光の推進を提案いたしますので、市長のお考えをお聞きいたします。

私は、この長井市を清らかな水と緑に育まれた美しく花咲く、芸術、文化とものづくりのまちだと思っております。点在する公共施設を中心とした、まちじゅう美術館として、芸術作品の常設展示は、観光客だけでなく、地元の文化芸術活動への関心も高まり、学校教育や社会教育の面でも寄与できると思いますので、ご検討のほどよろしく願いいたします。

壇上からの質問は以上になります。ご清聴ありがとうございました。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 緑風会を代表しての渡部秀樹議員のご質問にお答えいたします。

議員からは、大きく3項目で、私のほうは、9点ほどいろいろご質問やご提言などをいただきましたので、お答え申し上げます。

まず最初に、都市機能の充実と小さな拠点整備の方向性等についてということいろいろご提言をいただいたところです。

議員のほうからは、京都の駅中心としたさまざまな神社仏閣、あるいは京都ならではの文化芸術等々、あるいはいわゆる昔からの伝統的なものづくり産業やら、あるいは大学、学校のまちでもありますんで、そういったところの例などをとりながら、長井も駅中心のまちとして、規模は比較になりませんが、いろいろな可能性があるんじゃないかということのご提言をいただきました。

私ども長井のほうでは、去年の3月に策定いたしました長井市立地適正化計画におきまして、本市のまちづくりの課題として、2点ほど、まず課題を上げておりました。

まず1つ目は、子育て世帯の流出ということ。あと、2点目が、高齢者及び要介護者の増加ということを上げておまして、本来であれば、子育て世代にどんどんやっばり外からお越しいただいて、高齢者はできるだけ要介護者も含めて急激な増加は望まないわけですが、結果としては、その正反対になってるということの状況でございまして、これを解決するため、3つの施策を上げております。

1つ目として、子育て世代が集える空間の形成と世代間の交流の場の創出、そして、子育て応援機能と図書館を核とした全世代型、多世代の交流を促す複合施設をまちなかへ誘導し、幅広い世代のサードプレイスとなるような空間をつくっていく、創出するというところでございます。

2つ目が、中心市街地のにぎわいづくりと回遊性の促進ということで、これも昨年4月にオープンした旧長井小学校第一校舎との連携、また、現在鋭意進めていただいております県道の街路事業、このまちなかでの今後民間の新規出店等の支援と連携を進めていこうというもの。

3つ目は、地域の医療、介護等の連携充実による地域包括ケアシステムの進化ということで、まちなかに立地する長井病院と周辺の医療、福祉施設の連携を進めることで、病気や要介護状態になっても住みなれた地域や自宅で安心して過ごすことができる仕組みづくりを進めていこうというものでございます。

本市におきましては、都市機能誘導区域として、長井駅周辺を対象に中心市街地の再生を目指すため、病院、商業施設、介護福祉施設、幼稚園や保育所、図書館や文化施設など、必要な施設の誘導を推進し、中心市街地のにぎわいの創出を図ってまいるという考え方でございまして、このような施策のほか、渡部議員からありましたとおり、若者が集まる、集える魅力的なまちづくりも必要になるということでございます。さらには、起業、創業にチャレンジする若い経営者も徐々にふえてくるよう、こうした取り組みをさらに進めていきたいと思っております。

また、山形工科アカデミーでも、議員からあった、大学等々でございまして、短期大学の施設移転についても、昨年から工科アカデミーのほうで、理事会で協議がされていると伺っておりますので、工科短大が市街地に移転するに当たっては、積極的に協力したいというふうを考えております。

まず、これからの方向性としては、私ども行政でできることはこういったことなんですが、やっぱり一番重要なのは、それに応じて民間の皆様がどんな投資を含めた事業を展開してもらえるかということだと思います。そのために中心市街地活性化基本計画もつくってるわけですね。これは市がメリットあるのではなくて、民間事業者が経済産業省を初めとしたいろんな補助事業を受けられる土壌をつくってる。それに対して、市内の民間の皆様は、そういった動きが具体的にまだないということですので、今

後いろいろ働きかけをしなきゃいけないと考えているところでございます。

続きまして、2点目でございますけれども、雪国における充実した都市機能として除排雪、融雪への対策は不可欠であると考えますが、排雪場所の少ない住宅地の対策について問うということで、具体的に議員のほうから計画的にですが、少しずつでも住宅地の消雪などを進めるべきじゃないかということでございます。

これは、午前中の浅野議員のときにもお答えいたしましたけれども、正直もういっぱいいっぱいなんですよね。30年代、40年代のものを本来であれば、平成の1桁代、10年代ですべきものをできなくて、令和の今これからしなきゃいけないということで畳み込んでの、小さな拠点というのをこれからどういうふうに整備するかと。この後、議員からも提言いただけてますし、あと、さらにやっぱり大きな施設で学習プラザを初め、かなり老朽化してるものがあるんですよ。したがって、特にそういう箱物の長寿命化については国の制度がある。ところが、こういった道路の改良とか新規の拡幅とか、こういったものについてはほとんど国の支援がない状況でございまして、非常に厳しい状況だと思ってます。

したがって、簡単に申し上げますと、必要な、いわゆる不特定多数の車が通るような市道でも幹線の市道、ここが例えば郊外で雪が押せるところがあるところは、これは何とか消雪じゃなくて機械除雪でと。ただし、家がずっと連なって雪を排雪できる場所がないところに限っては、こういったところはしていかなきゃいけないということで、ここ六、七年ですね、何カ所かやってきてるわけです。ただ、これを住宅地のほうにも広げるっていうと、もうほぼ全てまちなか、やらなきゃいけなくなると。これは実質的に不可能であろうと。

したがって、今、場所によっては、市民の皆

様で私道を消雪化してるところもあるわけですね。私道でも道路の場合は税対象から外してるわけですし、また、補助事業で市から補助して消雪等々をやっていただけてると、自主的にですね。こういったところをもう少し拡充、あと、制度ももう少し充実したようなことをやっぱりやっていくしかないんじゃないかなと。

あとは、やっぱりこれから宅地の開発なんかするときは、基本、宅地の造成事業者が消雪をつくることということでいかないと、住宅を建ててもらうのはありがたいんですが、それを全て市で消雪しろって言われると、消雪の工事だけじゃなくて、実は維持管理費が、以前からもあるように非常にお金がかかるということでありまして、これらについては、今後いろんな検討をしていきたいと。

ただし、渡部議員おっしゃるのは、これは市民の感情としては当然でありますし、あと、高齢化で流雪溝などもむしろ逆に危険なんです。したがって、流雪溝をつくるということ自体もこれからはつくっても流雪溝を利用する人がどんどん高齢化して減ってくわけですから、時代に合ったような暮らしやすいまちですね、あと、安全・安心のまち、こういったことでトータル的に考えていきたいなと考えているところでございます。

続きまして、3点目ですが、都市機能の充実には、要素の一つとして就職、就業先の確保が不可欠であると考えますが、企業誘致について、現在どのように進んでいるのかということなんです。やはり企業誘致は今の段階で、私ども行政だけでは到底もう無理だと。まず1つは、工業用地さえあれば、黙って企業側から立地したいって来るところと、なかなか営業しても来てもらえないところとあるわけですね。

その要素っていうのは、1つには、製造業にかかわらず、その場所の立地とあと人材が確保できるかっていうのは、非常に重要なんです

けども、その2つとも、私ども長井市は現状ないわけですね。ですから、いろいろ苦労してやってきてますが、むしろ地元には企業誘致というよりも、地元企業で大変優秀な基盤技術を中心とした頑張っている企業がありますので、そういった企業の事業の拡張とか受注拡大、こういったところを支援していこうと。

あとは、企業内の人材を育成するための協力をしていこうと。あと、商工会議所と一緒に頑張ってサポート体制をとっていこうと。これをメインでやってきました。何回かはもちろんいいところまであった企業もあったんですが、まず1つは、私どもすぐ来てもらえる用地がないんです。売れる、買ってもらえる工業団地ってないんですね。

ですから、米沢はなぜあのよう立地するかということ考えたときに、やっぱり八幡原工業団地で撤退したところの売り物があるということと、あと、オフィス・アルカディアが売り物として新たに加わったと。そして、何よりも新幹線、高速道路も含めて、県内では山形の次に立地のいいところだ。しかも山形大学の工学部等があって、ものづくり関係の企業が非常に来やすいと。

ですから、そういう我々ハンデをどういうふうに克服するかっていうのは、議会の議員の力もおかりしたいと。市でどうだどうだって言うのは簡単ですけども、市の中では、なかなか会議所も今は大変ですしね。ぜひその辺などを、我々も地道にやっておりますし、特にものづくり人材推進協議会とかつくって、何とかものづくり人材を育てていこうと。

さらには、新技術を活用した、例えばAIとか先ほど言いましたIoT、また5Gとかロボット技術、こういったものの最先端の部分、むしろ我々みたいな長井だとほかにも負けずにやれる可能性があるんじゃないかと。それによって企業の立地を進めたいと。これは製造業に

限らずいろんな技術の企業誘致が図れるんじゃないかと。それには観光交流を図ることによって、商売を何か始めたいとか、そういったところのビジネスチャンスのあるまちを目指していくということで、いわゆる昔からの企業誘致というのは、なかなか私ども長井市ではそう簡単にはいかないなど。ただし、これはいつでもやっぱり努力していかなくちゃいけない問題だと思っておりますので、ぜひ渡部議員からもお力添えをお願いしたいと思っております。

続きまして、4点目は、小さな拠点整備の方向性についてということで、議員からは各地区のコミセンを小さな拠点として定め整備をしているが、今後どのような整備を進めていくのかと。各コミセンに簡易的な行政窓口の設置や公設民営の小型の菜ナポートやコンビニのような施設設置は検討できないかということなんですけども、私どものかつての地区公民館、昨年からは、全て6地区コミセン化を行っていただいたわけですけども、この考え方は、小さな市役所じゃないんです。あくまでも地域づくりの拠点であって、したがって、行政窓口の設置等々、あるいは市の職員の派遣というのは、長井市の場合は合併以降、窓口っていうのはありませんし、あとは、市からの派遣主事は40年前に全て撤退して、地元の人たちによる自主的な公民館づくりをお願いしてきたと。それを逆戻りするっていうのは違うだろうと。今むしろ必要なことは、地域の皆様にも頑張ってもらって、いわゆる市民の皆様と行政、あるいは民間、いろんな団体との協働によってそれぞれの地域が活性化できるような、そういう小さな拠点にしていこうと。その小さな拠点というのは、例えば西根だったら西根、致芳だったら致芳の中心としての都市機能を集めようっていう小さな拠点じゃないです。あくまでもその地域の中で大字ごとにあるわけですけども、それが均衡ある活性化できるようなそんな仕組みづくりをみんな

で力を合わせてつくってほしいと。我々行政は、できることを応援するという事です。

ただ、議員からあった、公設民営というのはなかなか難しいと思うんですけども、菜なポートやコンビニのような施設設置っていうのは、ぜひこれは検討していただきたいと。それは私どもではこれはだめですよ、行政で。というのは、小さな拠点であるいは6次産業化で補助を受けられるわけですね。でも、我々行政は受けられないんですよ。しかし、コミセンだったら受けられるわけですね。

しかも、例えば伊佐沢には直売所があるんですよ。やっぱりほかにも我々も菜なポートとか道の駅で少し売上げが落ちたかもしれませんけども、そういった中でコンビニっていうのは、私どもから見れば、マイナンバーカードでいろんな手続できるわけですから、できれば各地区にコンビニがあるのが望ましいと。ただ、伊佐沢と西根は現在のところないわけですから、そういったところを直売所も含めて、自分たちの収益事業として取り組むということもあっていいと思っています。

したがって、この辺のところは、我々から設置するんじゃなくて、それぞれそれぞれのコミセンのご判断で取り組んでもらいたいと。ただし、市のほうで必要な、例えば補助とか、あるいはさまざまな制度を使うための指導、助言、あるいは事務的なもの、こういったものはお手伝いしなきゃいけないとっておりますので、これはちょっと視点を変えていただければ、これは渡部議員がおっしゃるとおりだというふうに思います。

続きまして、5点目の長井盆地西縁断層帯の影響や老朽化から廃止という方針が出された西根体育館は、西根地区では活動や防災の拠点になってるため、小さな拠点整備として適切な土地に新たな整備をすべきではないか。また、老朽化が進む平野体育館についても同様に再整備

すべきではないかということでございます。

これは、議員おっしゃるように、西根の体育館と平野の体育館については、これは、それこそ昭和20年代か30年代ぐらいに建てた木造校舎の、それを昭和50年代に改築する際に取り壊さず使えるだけ使って、いずれ取り壊そうということだったんですが、西根については、やっぱり新たに地区の体育館をつくるほど長井市は余裕がないということで、ただ、耐震度はないわけですよ。調査も行ってません。旧平野小学校の体育館も同じように、もう床が抜けてますよね。それは耐震度がないから、じゃあやめますかということではなく、やっぱり使えるだけ使おうと、気を使って使おうと。

しかし、議員おっしゃってるように、老朽化から廃止っていう方針ではないんですね。これどっから出てるかですが、昔から言ってるんですが、新しく整備はもうしませんということなんです。特に西根は、今から10年ぐらい前だと思んですが、屋根が風で全部飛ばされて、1,000万円までかからなかったんですが、950万円、980万円ぐらいかけて屋根を整備したんです。これで最後で、あと例えば壊れても大規模な改修はしませんということを言っただけです。時は集中改革プラン、一番厳しいときでしたので、そういう話を、じゃあ10年使ったら使えなくなるんだと、こういう話だった。そんなことはないんですね。これ何回も言ってるんですが、どこからか誤解を、何回言ってもそういううわさで、非常に私は非難されてます。市長が何だと。我々の体育館を壊すのかということをやっています。

ただ、先ほど申しあげましたように、これやりたいのはやまやまですが、本当にできないんですよ。しかも活断層のところですよ。正直なところ、もしかしたら、これは勝手なことは言えないんですが、西根の小学校自体がやっぱり土砂災害区域なんですよ。だけど、それを

今、じゃあどうするって言われると、いわゆる活断層の直下じゃないもんですから、そのままにはさせていただいておりますけれども、このところは本当に今後どうするかっていうのを後期、2期の次の10年計画の中で小さな拠点の整備とか、あわせてこういった体育施設をどういうふうに整備していくかということ、本当につらいです。いっぱいやらなきゃいけないことがあって、たくさん要望をいただくもんですから。一方で、やっぱりそんなことできるのかって、議員は心配されるわけなので、本当に逃げ出したいぐらいの気持ちなんですけど、でも、ここのところはやっぱり地元の皆様ともお話ししながら、これをどう解決するかということを進めていかなきゃいけないと思っております。

続きまして、6点目が重要文化的景観活用の、済みません、急ぎます、方向性についてということで、私のほうからは、本市の観光資源として、今後どのような活用を検討していくのか。また、周辺環境整備についてどのように検討していくのかということで、これは議員からいろいろ提案をいただいております。時間もありませんので、詳しくお答えしたいんですが。

まず1つは、やはり私どもの先人が残してくれたそういう小出地区と宮地区に残る町屋景観、町場景観と言いますかね。これは最上川の周辺に形成されたものなんですけども、これをやっぱり生かさなきゃいけないってということで、重要文化的景観に認定はいただいたんですけども、ただ、これを本当に生かして、より多くの市民の皆様が我々のまちはいいまちだと、また、こういう文化的景観として認定を受け、また、こういう歴史ある建物を残した先人の皆様に感謝し、誇りに思うということをお願いするには、やっぱり一つ例として、この村上の例などを挙げていただきましたけど、やっぱりこういうところまで結びつかないとなかなか本当に市民の誇りにならないだろうと。あと、外からいら

していただいた方々の感動とか、長井っていいまちだなと思ってもらえるところに結びつかない。

現状は、議員からありますように、例えば通りがまだまちまちなんですね。村上のように黒堀とかで、我々行政も文部科学省のいろんな補助を使ってお手伝いする。あるいは、個人の重要文化的景観を形成する町屋については、これも国の補助を受けて、個人のものですけども、整備いただくための手助けをさせてもらおうと。そういったことをしないとなかなかそこまでいかない。やっと始まったばかりで今計画をたてておりますので、ぜひこのような方向で、提言いただいた方向で進めてまいりたいと思っておりますので、ぜひ、引き続きいろいろご助言などをいただければと思います。具体的に検討してまいりたいと思っております。済みません、本当に時間がなくて恐縮ですが。

あと、8番目、9番目、3点目の観光振興事業についてでございます。

議員のほうからは、第5次総合計画後期基本計画の観光振興分で示されている目標として、交流人口を拡大させ、地域経済に貢献する観光とありますが、この裾野が広い観光産業を検討推進するため提案いたしますということで、ながい百秋湖の湖面活用事業として、人気アニメ「ポケットモンスター」ラプラス型足こぎボートの運航についての提案という、大変おもしろい楽しい提案をいただいたなというふうに思っています。ぜひこれ検討してまいりたいと思っておりますが、1つネックは、長井ダムのほうは、ご承知のとおり、全国で初めて管理ダムのオープン化というのを認定いただいたんですね。今度は私ども市が長井ダムの利用できる、3カ所、4カ所ぐらいですけども、そこを国土交通省から認可をいただいて、民間の皆様にご利用いただくと。その中で、百秋湖については、まず1つは、水陸両用バス、あと遊覧船、それとボー

トですね。しかもこういうかわいい船だと広過ぎて危ないかなと思うんですね。一番いいなって直観的に思ったのは、古代の丘の中里堤、これだとちょうどいいだろうと。あそこは特にこれから子供たちとか若い人たちの観光スポット、観光といいますか、いろいろちょっと遊ぶに非常にいいので、ここだと安全なんですね。しかもあそこは草岡の皆さんがいろんな形で協力して会をつくっていただいて運営していただいていますので、そういったところに委託すると、これはすぐできるなど。それは、ぜひ地元とかあるいは観光協会あたりと検討してまいりたいと思っております。

あと、最後になりますけど、まち歩きのときに観光客などが気軽に休める休憩所と観光客などが気軽に前を頼める出前ポイントの設置についての提案ということで、これも非常におもしろい、重要だと思っております。これ、渡部議員、ご存じかどうかですが、まちづくりNPOさんで昔やっていたんでしたね。我々、市の職員の幹部でも話したんですが、まちづくりNPOさんが10年前から頑張ったこと、今やってくれると本当成果上げられたのになど。あのときは孤立無援の中で、行政も全然そんな計画ありませんでしたし、支援も余りできなかったんですけども、本町の街路事業あたりからいろいろなお話を聞いたんですが、ちょっと今なかなか人手が足りなくてできなくております。

今後、こういったところをNPOとか、あと、中央地区のコミセンとか、そういったところとも相談しながら、こういった取り組みをいろんな団体とか市民が工夫してやるということで地域が活性化するんだと思いますね。それで、私ども市のほうでもいろいろ、市の商工観光課のみならず、観光協会とか、あと、観光局とか、そういったところと連携しながら、ぜひいろんなことを検討していきたいと思っておりますので、これからもいろいろご助言、ご指導などいただけ

ればと思います。

○平 進介議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 私には、重要文化的景観、特に町場景観の教育的価値とそれからその活用についてご質問をいただきました。

水のまち長井で舟運が栄えて、まちができ、その中で人々が豊かなかわりを持ちながらつくってきた文化の一つ、それが、私は町場だというふうに思っております。

私からは、学校教育活動、それから生涯学習、その2つの立場からお答えを申し上げたいというふうに思います。

市内の児童生徒については、小学校の総合的な学習や社会科の授業、それから市内めぐり等の行事の中で、それから、中学校については、探求型学習の中で文化的景観になれ親しんでおります。特に中学校においては、長井の文化的景観の魅力は大田区の人々に発信することを通して、町場景観の魅力に誇りを持ち、長井に帰ってきます。さらに、この春完成する新しい3年生の副読本ですけども、ここに新しい景観を生かすまち長井市として、重要文化的景観に選定された内容を記載しております。私たちの住む地域がどのような特色を持っているのかを調べ、まとめ、故郷の魅力を発見し、誇りとして大切にしていこうとする、その心を育むものです。

また、生涯学習におきましては、長井の文化的景観を市民参加で守ろうとする水守アクション、これは平成27年度から実施しております。長井の町場における文化的景観を構成する河川、水路、その清掃作業や観察を通じて、長井の独特の構造について、そして、その構造を生み出した暮らしぶりを学ぶ事業になっております。

また、昨年9月には、重要文化的景観を考えるトークイベント、これを開催し、多くの市民の皆様にご聴講いただきました。トークイベントの様子はSNS等で動画配信を通して多くの

皆さんにお伝えできたところでおります。

このような学校教育、それから生涯教育、それぞれの立場の諸活動を通して、長井の歴史や風土を学び、深く理解し、将来的にはやはりまちづくりを主体的に行う、そんな行動につながるよう、本教育委員会としても取り組んでまいり所存であります。今後ともご指導のほう、よろしくお願ひしたいと思います。

○平 進介議長 9番、渡部秀樹議員。

○9番 渡部秀樹議員 さまざまな答弁ありがとうございます。

1点だけ、市長の答弁いただけてないところがありましたので、先にいただきたいと思いますが、ご寄附いただいた芸術作品等を活用した文化芸術観光の推進について、市長、お願ひします。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 大変失礼いたしました。最後の答弁が抜けておりましたおわび申し上げます。

議員からいただきました寄附していただいた芸術作品等を活用した文化芸術観光の推進についてということでご提言いただきました。

ご承知のとおり、私ども長井には、随分いろんな方から、長井市出身の方やら、あるいは、ぜひ長井のいろんな公共施設で展示してほしいということで美術作品をたくさんご寄贈いただけてるんですが、その美術品の貯蔵する場所もないと。ましてや、展示は本当はないんですが、ただ、これから、現在工事中の市役所であったり、あるいは文化会館、また、これから病院、これは2年かかりますけども、あと、学校調理場、こういったところでふさわしいような美術品をぜひ活用させていただきたいというのと、今後、学習プラザと、あとTAS、あと各地区の小さな拠点であるコミュニティセンター、こちらにもできればふさわしいようなものをぜひご寄贈でありますので、皆さんに、あるいは市外からいらっしゃる方に見ていただこう

と思っております。

あと、加えて、特に宮・小桜街区ですよ。いわゆる舟運で栄えた長井の象徴の一つが文教の杜周辺でありますので、空き家、空き店舗が結構あります。こういったところを民間の皆さん、市民の皆様が行っていただけてるようなまちめぐり美術館、これは障がいを持つ方の作品だったり、あとはいただいた、そういう作品だったりしたものをミニ美術館みたいな、ミニギャラリーみたいなもので、私どもで、できればいろんな個人とか団体と連携しながら、運営も考えて整備しながら、そういうふうにしてまちなかにいろいろ見て回れるような、そんなことに活用してまいりたいと思っておりますので、ぜひ具体的な何かご提案ありましたら、ご提示いただければありがたいと思ひます。

○平 進介議長 9番、渡部秀樹議員。

○9番 渡部秀樹議員 前向きなご答弁ありがとうございます。

では、今いただいた文化芸術観光の件から始めたいと思ひます。

市長からもありましたけども、いろんな施設に飾っていく方向性を持っていただけるということでありましたが、もちろん一般的な芸術作品の飾り方でも私はよろしいと思うんですけども、せっかく数多く所蔵して、置き場所にも苦慮しているというのは、私も聞き及んでるところでありますので、例えば新庁舎の長い廊下に、ほかではできないような、1メートルおきぐらいに並んでいるような、かつて私がガチャガチャの話をしたときですか、フラワー長井線の中にいっぱい並んでるようなそんなイメージですね。文化芸術推しでそこはちょっと行ってお迎えするような、ほかのまちとはやっぱり違うなというような推し方もありかとは私思ひます。そして、寄贈されたものも、もちろんそれに劣化等はあるかもしれませんが、飾られずにただ人目に触れずにほこりをかぶっていく

よりは多くの人の目に触れ、そして、主たるところが公共施設であります。信頼できる市の職員がいる場所ですから、なかなかいたずら等も少ないと思いますので、そういった飾り方なんかも、この場で少しお話しさせていただきます。市長、どうでしょうか。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 議員おっしゃるように、難しいところはあるんですが、せっかくご寄贈いただいたものをやっぱり誰にも見てもらえずにしまっておくというのは、忍びないっていうか、せっかくのご厚意に応えられませんので、ぜひその辺のところは検討してまいりたいと思います。一番期待してたのは、実は病院だったんですが、回復期の病院ですから、やっぱり入院されてる方がいち早くご自宅に戻って、また元気に社会復帰できるように、その勇気を与えるような作品をと思ったんですが、実際実施設計見てみますと、飾るスペースがあんまりないんですよ。

あと、市役所なんかも、特に議会棟のほうは駅と一体、あるいは市民協働ルームなんかと一体ですので、そういったところは本当にくつろげるようなものにしたいとかいろいろありますので、この辺などをぜひ令和2年度あたりの半ばぐらいまでは候補地を大体設計の中身がわかって、この辺に飾れるんじゃないかと検討できる時期になりますので、そのときにまた議会の皆様にもご報告をさせていただきながら、ご意見などもいただければというふうに思っております。

○平 進介議長 9番、渡部秀樹議員。

○9番 渡部秀樹議員 ぜひよろしくお願いいたします。

時間も少ないですので、ここはお願いのような形になると思いますが、先ほども「ポケットモンスター」のラプラス型の足こぎボートの件、私もダムだと水位にかなり左右されて、栈橋を移動させるのも一苦労だということのももちろんあ

るところで、市長は、よく中里堤にお気づきになりまして、私も中里堤どうでしょうかと2次質問する予定がありまして、合意したということでもとてもいい質問だったと思います。

そういった形で、これからも少し変わったような提案をさせていただくと思います。といたしますのは、観光事業にしましても、文化芸術系の事業にいたしましても、多くの方に見ていただいて、評価されて何ぼだというのはもちろんあります。ですので、いろんなところの先進事例、ぱっと見、おかしなことをやってるところはいっぱいあるんですよ。それでも、その理屈は正しいんですね。見てもらわなければ税金を投入する意味がなくなる。ですので、こうしたちょっと気になったところは、この場をかりまして、市長と討論させていただきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。私からは以上になります。

○平 進介議長 ここで暫時休憩いたします。再開は午後3時25分といたします。

午後 3時02分 休憩

午後 3時25分 再開

○平 進介議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

次に、政党代表質問を行います。

今泉春江議員の質問

○平 進介議長 順位5番、議席番号14番、今泉春江議員。

(14番今泉春江議員登壇)